

## 2020年3月期 決算説明会

富士フイルム ホールディングス株式会社

2020年5月22日

本資料における業績予想及び将来の予測等に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、様々な要因によりこれらの業績予想とは異なることがありますことをご承知おきください。

## 2020年3月期 業績

## ■ 2020年3月期 業績

(億円)

	実績	対前年	COVID-19影響
売上高	23,151	-1,164 (-4.8%)	-470 (-1.9%)
営業利益	1,866	-232 (-11.1%)	-260 (-12.3%)
株主帰属当期純利益	1,250	-131 (-9.5%)	-180 (-13.0%)

- ✓ 2020年3月期業績予想は未達
- ✓ 配当金は計画通り95円を予定

## ■ COVID-19に対する当社の取り組み

- ✓ COVID-19治療薬候補「アビガン®錠」
- ✓ PCR検査時間の大幅な短縮を実現する遺伝子検出キットの開発・販売
- ✓ 全自動遺伝子解析装置「ミュータスワコー g1」用遺伝子検出試薬の開発・販売
- ✓ 肺炎診断などに使用する医療診断機器・材料の提供
- ✓ 「COVID-19 Therapeutics Accelerator」より治療薬のプロセス開発・製造を受託

2

富士フイルムホールディングスの2020年3月期業績ですが、売上高は、前年比4.8%減の2兆3,151億円、営業利益は、前年比11.1%減の1,866億円、株主帰属当期純利益は、前年比9.5%減の1,250億円となりました。

COVID-19の影響は売上高でマイナス470億円、営業利益でマイナス260億円と見ております。感染拡大によって経済活動、消費活動が停滞したことで、当社の業績にも大きな影響が出ました。これにより、通期業績予想も未達となりましたが、当期の配当金は、当初の計画通り年間95円の配当を予定します。

当社は、COVID-19が急速に拡大する中で、従業員の健康と安全を確保するとともに、ヘルスケア事業を幅広く展開する企業として、感染拡大抑止・流行終息に貢献すべく、取り組んでいます。

治療薬として期待される富士フイルム富山化学が開発した「アビガン®錠」につきましては、後ほど、岡田より説明します。「アビガン®錠」以外にも、PCR検査時間を短縮した新型コロナウイルス用遺伝子検出キットや全自動遺伝子解析装置「ミュータスワコー g1」で使用する新型コロナウイルス遺伝子検出試薬を富士フイルム和光純薬が開発しました。肺炎診断に使用されるレントゲン機器・材料、超音波診断装置を当社のメディカルシステム事業が生産・供給しています。また、バイオCDMO事業では、ビル&メリンダ・ゲイツ財団などが立ち上げた治療推進プロジェクト「COVID-19 Therapeutics Accelerator」から、治療薬のプロセス開発・製造を受託します。

## 2021年3月期の取り組み

ヘルスケア& マテリアルズ ソリューション	<b>ヘルスケア領域・高機能材料領域の事業成長</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ COVID-19の感染拡大抑止・流行終息に貢献する製品・サービスの提供</li> <li>・ バイオCDMO事業の顧客ニーズに合った高品質なバイオ医薬品の供給によるビジネス拡大。</li> <li>・ 日立製作所からの買収事業とメディカルシステム事業のシナジー創出</li> <li>・ 半導体生産などへの高機能材料提供やディスプレイ分野での新製品開発</li> </ul>
ドキュメント ソリューション	<b>来年度からスタートする「富士フイルム ビジネス イノベーション」として新たな戦略による成長の加速とさらなる収益力の向上</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な働き方を支援するソリューション・サービスビジネスの拡大</li> <li>・ オンリーワン商品の創出とOEM拡大によるドキュメント事業の進化・発展</li> <li>・ 世界市場を見据えたマーケティング活動のスタート</li> </ul>
イメージング ソリューション	<b>キャッシュカウとして収益性維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ チェキ、スマホプリント、デジタルカメラで多様な写真の楽しみ方を提案</li> </ul>
財務方針	<b>キャッシュ管理の強化・財務の健全性維持</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 成長領域・必要領域への設備投資と開発投資に重点的に資金を投入</li> <li>・ ROICとCCCを経営管理に導入しキャッシュ創出力を強化</li> <li>・ キャッシュフローと負債のバランスを維持し、財務健全性を確保</li> <li>・ 株主還元は、配当性向25%以上を目標とする方針継続、自社株買いは機動的に実施</li> </ul>

次に、2021年3月期の業績予想ですが、COVID-19流行の終息が見通せない中で、現段階では合理的な見積もりが難しいため、今後の当社業績への影響を慎重に見極めた上で、改めて皆様にお知らせします。

次期中期経営計画につきましても、今月公表する予定でしたが、まずは現在の状況への対応に注力し経営基盤をしっかりと固めた上で、流行の終息とその後の事業環境や経済状況を考慮した中期計画を再検討することにしました。

2021年3月期の事業面および財務面での取り組みですが、ヘルスケア領域では、COVID-19に対する製品・サービスの提供に加え、バイオCDMO事業のビジネス拡大やメディカルシステム事業と日立製作所の画像診断関連事業とのシナジーなどにより成長を加速します。高機能材料領域では、在宅勤務・在宅学習の拡大で需要が高まったPC、タブレット向けの材料を供給していくことや、5Gなど技術の進化を支える半導体生産に必要な材料を提供することなどで事業成長を図ります。

次に、2021年4月から「富士フイルム ビジネス イノベーション」としてスタートするドキュメント領域は、ソリューション&サービス事業へのシフト加速やオンリーワン商品の創出、OEMビジネスの拡大、そして世界市場を見据えたマーケティング活動をスタートし、事業を進化・発展させていきます。

イメージングソリューションは、チェキやスマホプリント、デジタルカメラでの多様な写真の楽しみ方を提案することで、キャッシュカウとしての収益性を維持していきます。

財務面では、キャッシュ管理を強化し財務の健全性を維持していきます。

設備投資や開発投資は、バイオCDMO事業やメディカルシステム事業などの成長領域、富士ゼロックスのブランド変更に伴う費用などの必要領域に重点的に資金を投入します。

また、事業ごとにROICとCCCによる管理を行い、キャッシュ創出力を強化します。

さらに、コミットメントラインを含めた短期資金借入枠を設定して、緊急の資金需要の可能性に備えるとともに、キャッシュフローと負債のバランスを維持することで、財務健全性を確保します。

株主還元については、配当性向は25%以上を目標とし、自社株買いは機動的に実施していきます。

全事業の収益力向上に努めて安定的なキャッシュ創出を進め、“All-Fujifilm”でこの難局を乗り越えていきます。

## 「アビガン®錠」に関する当社の取り組み

### ■「アビガン®錠」（一般名：ファビピラビル）

- ✓ 国内では抗インフルエンザウイルス薬として製造販売承認を取得（2014年）
- ✓ ウイルスのRNAポリメラーゼを選択的に阻害することでウイルスの増殖を防ぐというメカニズムを有することから、インフルエンザウイルスと同種のRNAウイルスである新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対しても効果を期待。

### ■当社の取り組み

- ① 日米でCOVID-19患者を対象とした企業治験を実施中  
日本：PhⅢ、米国：PhⅡ
- ② 日本を含む、各国からの提供要請に応えるべく、アビガン®錠の増産を開始

アビガン®錠生産能力
2020年7月：約10万人分 <sup>※</sup> /月（1,200万錠/月）
2020年9月：約30万人分 <sup>※</sup> /月（3,600万錠/月）
段階的に生産能力を向上させる

日本政府や海外からの提供要請に迅速に対応し、  
COVID-19の感染拡大抑止や流行の終息に貢献する。

※一般社団法人日本感染症学会の「COVID-19に対する抗ウイルス薬による治療の考え方」に準拠した、「ファビピラビル」の投与方法（1日目1,800mg/回×2回、2日目以降800mg/回×2回、最長14日間）をもとに算出。

4

「アビガン®錠」について、改めて説明します。

アビガン®錠は、2014年に国内で抗インフルエンザウイルス薬として製造販売承認を取得した薬剤です。

ウイルスのRNAポリメラーゼを選択的に阻害することでウイルスの増殖を防ぐというメカニズムを有することから、インフルエンザウイルスと同種のRNAウイルスである新型コロナウイルスに対しても同様の効果を期待しています。

次に、当社が進めている取り組みについて説明します。

1つ目は、「日米での企業治験」です。

日本では抗インフルエンザウイルス薬として製造販売承認を取得していますが、COVID-19治療薬としての製造販売承認を新たに取得する必要がありますので、当社は日米2か国でCOVID-19患者を対象とした企業治験を実施しています。

2つ目は、「アビガン®錠の増産」です。

日本政府は、新型インフルエンザ向けの国家備蓄を含む200万人分のアビガン®錠を確保するために、補正予算案を閣議決定し、国会で承認されました。

また、海外からも多くの提供要請を頂いています。

これらの要請に迅速に対応すべく、2020年4月より増産を開始しました。段階的に生産能力を向上させ、日本政府の追加備蓄要請については、2020年度内での納品完了を予定しています。

増産体制の構築にあたり、グループ会社の富士フィルム和光純薬にて医薬品中間体の生産設備を増強しています。また、原料メーカーなどの各社様との連携により、増産を実現します。

以上の対応により、アビガン®錠を国内外に供給し、COVID-19の感染拡大抑止や流行の終息に貢献していきます。

## 2020年3月期 業績 (2019年4月～2020年3月)

(単位：億円)

	通期				
	2019年3月期	2020年3月期	対2019年3月期	為替影響	対2019年3月期 為替影響除く
売上高	24,315 100.0%	23,151 100.0%	-1,164 -4.8%	-488	-676 -2.8%
営業利益	2,098 8.6%	1,866 8.1%	-232 -11.1%	-132	-100 -4.8%
税金等調整前 当期純利益	2,128 8.8%	1,731 7.5%	-397 -18.7%	-125	-272 -12.8%
当社株主帰属 当期純利益	1,381 5.7%	1,250 5.4%	-131 -9.5%	-86	-45 -3.2%
1株当たり 当社株主帰属 当期純利益	326.81円	306.18円	-20.63円		
為替 : 米ドル : ユーロ	111円 128円	109円 121円	2円高 7円高	<その他増減要因 (対前年度)> 営業利益における 原材料価格影響：+29億円	

5

2020年3月期の業績は、

売上高は、前年比4.8%減の2兆3,151億円、

営業利益は、前年比11.1%減の1,866億円となりました。

税金等調整前当期純利益は、

持分証券評価損の計上などにより、前年比18.7%減の1,731億円、

当社株主帰属当期純利益は、前年比9.5%減の1,250億円となりました。

## セグメント別 連結売上高／営業利益

(単位：億円)

売上高	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2019年 3月期	2020年 3月期			
ヘルスケア	4,843	5,041	198 (+4.1%)	-103	301 (+6.2%)
ヘルスケア&マテリアルズ	10,390	10,242	-148 (-1.4%)	-206	58 (+0.6%)
ドキュメント	10,056	9,583	-473 (-4.7%)	-167	-306 (-3.0%)
イメージング	3,869	3,326	-543 (-14.0%)	-115	-428 (-11.1%)
合計	24,315	23,151	-1,164 (-4.8%)	-488	-676 (-2.8%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益	通期		対前年度	為替影響	為替影響除く
	2019年 3月期	2020年 3月期			
ヘルスケア	333	331	-2 (-0.8%)	-18	16 (+4.6%)
ヘルスケア&マテリアルズ	976	924	-52 (-5.3%)	-39	-13 (-1.3%)
ドキュメント	964	1,050	86 (+9.0%)	-51	137 (+14.3%)
イメージング	511	251	-260 (-51.0%)	-44	-216 (-42.3%)
全社/連結調整	-353	-359	-6 -	2	-8 -
合計	2,098	1,866	-232 (-11.1%)	-132	-100 (-4.8%)

6

続いて、セグメント別の業績ですが、売上・利益はご覧の通りです。

## セグメント別 概況

## ■ ヘルスケア&amp;マテリアルズ

(単位：億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
10,242	-148	(-1.4%)	924	-52	(-5.3%)

売上は、COVID-19影響などにより、全体で減収となるも、メディカルシステムやバイオCDMO、再生医療がけん引し、ヘルスケア領域は増収。

営業利益は減益。

＜COVID-19感染拡大による影響＞

- ・メディカルシステムで、肺炎診断のための回診用X線撮影装置などの販売が伸長も、全体では病院への営業活動自粛や商談の遅延が発生
- ・グラフィックシステムで、イベントなどの自粛による印刷需要減

＜事業の状況＞

- ・メディカルシステムでは、医療IT、内視鏡、体外診断などの分野で販売が堅調に推移。
- ・バイオCDMOでは、バイオ医薬品のプロセス開発受託、及び製造受託が好調に推移。
- ・医薬品では、2020年2月より、リポソーム製剤専用の新工場が稼働を開始し、開発・製造受託サービスをスタート。
- ・ディスプレイ材料では、液晶パネルの生産調整などの影響で売上が減少。
- ・電子材料では、フォトリソ周辺材料において半導体市場低迷の影響を受けたが、CMPスラリーなどの販売が引き続き堅調に推移し、全体で増収。
- ・記録メディアは、大容量データストレージ用磁気テープ製品の販売が好調に推移。
- ・グラフィックシステムでは、刷版材料の需要減により売上は減少。

セグメント別について、まずは、ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門の業績の概要について説明します。

COVID-19の影響ですが、メディカルシステムは、病院への営業活動の自粛や商談の遅延などで全体ではマイナスの影響を受けましたが、肺炎診断のための回診用X線撮影装置や超音波診断装置などの販売が伸長しました。また、グラフィックシステムは、営業活動の停滞に加え、イベントの自粛に伴いポスターやチラシなどの印刷需要が減少する等の影響を受けました。バイオCDMO、電子材料及びディスプレイ材料は影響を受けておらず、その他の事業は影響を受けましたが軽微でした。

ヘルスケア領域の通期の状況について、メディカルシステムは、営業活動の自粛、商談遅延などの影響を受けたものの、医療ITや内視鏡、体外診断などの分野で販売が堅調に推移、さらに肺炎診断用に回診用X線撮影装置などの販売が伸長し、通期で増収となりました。バイオCDMOは、バイオジェンの製造子会社の連結子会社化や設備の増強によって、バイオ医薬品のプロセス開発受託および製造受託が増加しました。再生医療は、「FUJIFILM Irvine Scientific」のバイオ医薬品向けの培地販売が好調で、売上が増加しました。

マテリアルズ領域の通期の状況について、ディスプレイ材料は、液晶パネル生産調整の影響を受けて減収となったものの、有機EL向けなどの新製品販売が堅調に推移。また、今年度に入って、在宅勤務・在宅学習の拡大で、PC、タブレット向けの材料の販売が伸長しています。電子材料は、フォトリソ周辺材料などの製品は半導体市況の影響を受けましたが、CMPスラリーなどの販売が堅調で、全体で増収となりました。記録メディアは、「FUJIFILM LTO Ultrium8 データカートリッジ」などの大容量データストレージ用磁気テープ製品の販売が増加し、通期で増収となりました。

ヘルスケア&マテリアルズ ソリューション部門は、全体では減収となりましたが、メディカルシステムやバイオCDMO、再生医療などで売上が増加しました。営業利益は減益となりました。

## セグメント別 概況

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位：億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
9,583	-473	(-4.7%)	1,050	86	(+9.0%)

売上は、COVID-19影響に加え、欧米向け輸出の減少や中国での販売減少により減収。  
営業利益は、収益性の改善や構造改革効果により増益。

## ＜COVID-19感染拡大による影響＞

- ・全体では、COVID-19により営業活動の自粛や商談の延期が売上に影響。
- ・オフィスプロダクト&プリンターにおいて、COVID-19によるオフィス閉鎖などで製品販売が減少。一方で、リモートワークの浸透により、中小規模事業所のネットワークセキュリティ対策を包括的に支援するアウトソーシングサービス「beat」や、全国のセブン-イレブン店頭を設置された複合機を利用した「ネットプリント®サービス」の需要が拡大。

## ＜事業の状況＞

- ・オフィスプロダクト&プリンターでは、欧米向け輸出および中国での販売が減少。国内では、堅牢なセキュリティ環境を実現するカラー複合機のフラッグシップモデル「ApeosPort-VII C」シリーズの販売が第3四半期まで堅調に推移。
- ・プロダクションサービスでは、全体の販売台数が増加。
- ・ソリューション&サービスでは、国内でオフィスIT環境の構築・運用などを一括してサポートするサービスが伸長。

ドキュメント ソリューション部門の業績の概要について説明します。

COVID-19の影響ですが、営業活動の自粛や商談の延期、オフィス閉鎖によるMFPの稼働減などによるマイナス影響を受けました。

オフィスプロダクト&プリンターは、欧米向け輸出および中国での販売が減少したものの、国内で主力のカラー複合機「ApeosPort-VII C」シリーズの販売が通期で堅調でした。第4四半期にはCOVID-19の影響を受けましたが、リモートワークの広がりから、全国のセブン-イレブン店頭を設置された複合機を利用した「ネットプリント®サービス」の需要が拡大しました。

ソリューション&サービスは、国内でオフィスのIT環境の設計・導入・運用・管理を一括してサポートするサービスの販売が伸長したことにより、通期で増収となりました。第4四半期から、強固なセキュリティ・簡単・便利なネットワーク環境を実現するサービス「beat」の引き合いが増加しました。

ドキュメント ソリューション部門は、中国の景気減速、欧米向け輸出の減少、さらにCOVID-19の影響を受けて売上高は減少しましたが、収益性の改善や構造改革の効果により、営業利益は増益、営業利益率は11.0%となりました。



## セグメント別 概況

## ■ イメージング ソリューション

(単位：億円)					
売上高	対前年度		営業利益	対前年度	
3,326	-543	(-14.0%)	251	-260	(-51.0%)

売上は、COVID-19影響などで、インスタントフォトシステム「チェキ」やカラーペーパー、ミラーレスデジタルカメラ「Xシリーズ」などの販売が減少し、減収。営業利益は減収により減益。

## ＜COVID-19感染拡大による影響＞

- ・当社グループ中国工場における操業率低下で、一部新製品の発売を延期。
- ・小売店への来客減や休業などにより、インスタントフォトシステム「チェキ」シリーズやミラーレスデジタルカメラ「Xシリーズ」などの販売に影響。

## ＜事業の状況＞

- ・フォトイメージングでは、カラーペーパーの販売減に加えて、チェキで上期に在庫調整があった影響などで売上が減少。第3四半期のチェキのセルスルーは対前年増加。
- ・電子映像では、市場環境が厳しく、主にエントリーモデルの売上が減少したが、「Xシリーズ」のフラッグシップモデル「FUJIFILM X-Pro3」などの販売は堅調に推移。
- ・光学デバイスでは、主に中国景気減速による車載用など各種産業用レンズの需要減の影響を受けて売上は減少。

イメージング ソリューション部門の業績の概要について説明します。

当部門は、COVID-19の影響を大きく受けました。中国工場の操業率低下などによる生産の遅れから、新製品「instax mini 11」が一部地域で発売延期となったことに加え、一部デジタルカメラのセルインが遅れました。

また、小売店の来客減や休業などにより、インスタントフォトシステム「チェキ」シリーズやミラーレスデジタルカメラ「Xシリーズ」などの販売が減少しました。

加えて、フォトイメージングは、カラーペーパーの需要減少や、インスタントフォトシステムで上期に米国で在庫調整の影響があり、通期で減収となりました。インスタントフォトシステムのクリスマス商戦期のセルスルーは対前年増加、また、新たな楽しみ方を提供する「instax mini LiPlay」やスマートフォン用プリンター「instax mini Link」は期待通りの売れ行きでした。

電子映像は、市場環境が厳しく、主にミラーレスのエントリーモデルの需要減が進み、さらに、COVID-19の影響を受けたことにより、通期で減収となりました。

光学デバイスでは、中国景気減速に加えて、COVID-19の影響により各種産業用レンズの需要減が進み、売上は減少しました。

イメージング ソリューション部門は、COVID-19の影響などにより対前年で売上高は減少、営業利益は減収により減益となりました。

## 富士ゼロックスにおける構造改革

(単位：億円)

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	合計
構造改革費用等 一時費用	700	161	87	948
効果	0	310	181	491

2020年3月期	1Q実績	2Q実績	3Q実績	4Q実績	通期
構造改革費用等 一時費用	41	4	34	8	87
効果	83	38	30	30	181

2020年3月期の構造改革は計画通りに実施

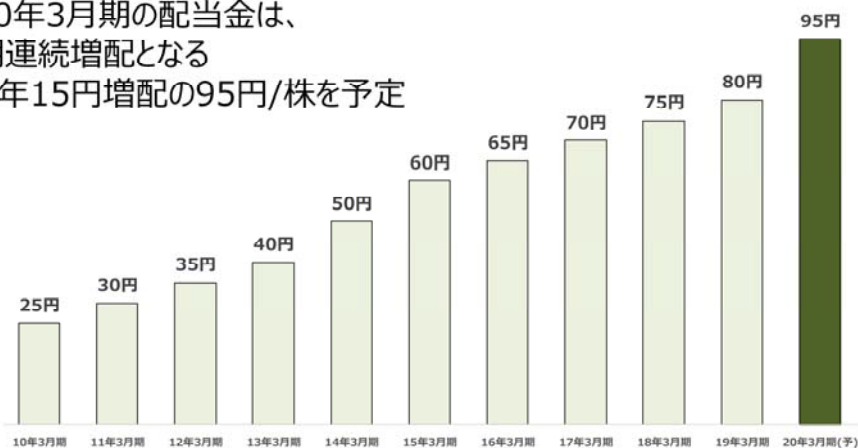
ドキュメント事業の、2020年3月期 累計の構造改革費用等一時費用は87億円、効果は181億円となりました。

2018年1月に公表しました構造改革の最終年度となる2021年3月期の費用と効果の見直しにつきましては、業績予想とあわせてお知らせします。

## 株主還元

### ■ 配当金

2020年3月期の配当金は、  
10期連続増配となる  
対前年15円増配の95円/株を予定



### ■ 自己株式取得

2020年3月期は516億円の自己株式取得を実施

2020年3月期の年間配当金は、当初計画通り、95円を予定しています。

また、2020年3月期には、総額516億円の自己株式を取得し、これによりVISION2019で計画した3,000億円の株主還元を達成しました。

2021年3月期の年間配当予想につきましては、現時点では未定で、同期の業績予想とあわせてお知らせいたします。

## 連結貸借対照表

					(単位：億円)				
	18年 3月期末	19年 3月期末	20年 3月期末	対19年 3月期末		18年 3月期末	19年 3月期末	20年 3月期末	対19年 3月期末
現金 及び現金同等物	7,682	6,547	3,961	-2,586	長短社債 及び借入金	4,542	5,241	6,242	1,001
受取債権	6,191	6,178	5,584	-594	支払債務	2,485	2,384	2,223	-161
棚卸資産	3,613	3,745	3,809	64	その他流動 固定負債	4,915	4,073	4,814	741
その他流動資産	1,122	839	1,538	699	負債計	11,942	11,698	13,279	1,581
流動資産計	18,608	17,309	14,892	-2,417	株主資本計	20,791	20,370	19,533	-837
有形固定資産	5,375	5,268	6,005	737	非支配持分	2,196	2,079	405	-1,674
営業権	5,916	6,555	6,872	317	純資産計	22,987	22,449	19,938	-2,511
その他固定資産	5,030	5,015	5,448	433	負債・純資産 合計	34,929	34,147	33,217	-930
固定資産計	16,321	16,838	18,325	1,487	(単位：円)				
資産合計	34,929	34,147	33,217	-930	期末日 為替レート	18年 3月期末	19年 3月期末	20年 3月期末	対19年 3月期末
					米ドル	106	111	109	2円高
					ユーロ	131	125	120	5円高

12

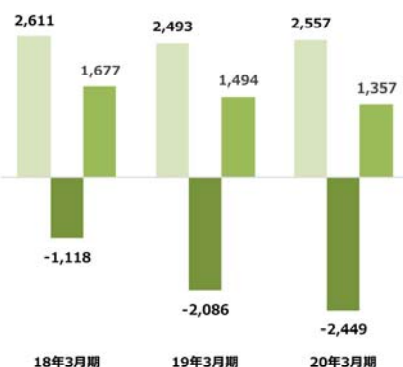
バランスシートについて説明します。

2020年3月期末時点の資産合計は、  
2019年3月期末時点と比べ、現金及び現金同等物の減少などにより930億円減の  
3兆3,217億円となりました。

負債は、社債および借入金の増加などにより、1,581億円増の1兆3,279億円、株主資本  
は837億円減の1兆9,533億円となりました。

## キャッシュ・フロー

■ 営業活動によるキャッシュ・フロー  
■ 投資活動によるキャッシュ・フロー  
■ フリー・キャッシュ・フロー（事業買収等除く）  
 （単位：億円）



	(単位：億円)		
	18年3月期	19年3月期	20年3月期
四半期純利益	1,442	1,571	1,383
減価償却費	1,276	1,299	1,227
受取債権の増(-)減(+)	413	49	533
棚卸資産の増(-)減(+)	-75	-123	-115
営業債務の増(+)-減(-)	-200	-125	-106
その他	-245	-178	-365
営業活動によるC F	2,611	2,493	2,557
設備投資	-630	-685	-847
ソフトウェアの購入	-185	-205	-250
投資有価証券の売却・購入等	1,089	-244	-31
事業買収	-1,273	-843	-1,218
その他	-119	-109	-103
投資活動によるC F	-1,118	-2,086	-2,449
フリー・キャッシュ・フロー	1,493	407	108
事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フロー*	1,677	1,494	1,357

※フリー・キャッシュ・フローから、事業買収および投資有価証券等の売却・購入を控除しています。

13

最後に、キャッシュ・フローについて説明します。

営業活動によるキャッシュ・フローは、受取債権の減少などにより、2,557億円の収入となり、前年に対して64億円増加しました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、事業買収などにより、2,449億円の支出となりました。

この結果、事業買収等を除くフリー・キャッシュ・フローは、1,357億円の収入となりました。

経済環境等の先行きが不透明のため、2021年3月期は、設備投資等へのキャッシュ配分は、成長機会や投資効率を精査し、優先順位をつけて慎重に実施していきます。また、ROICとCCCを経営管理に導入することで、キャッシュの創出力とバランスシートの管理を強化し、健全な財務体質を維持していきます。

2020年3月期決算の説明は以上です。

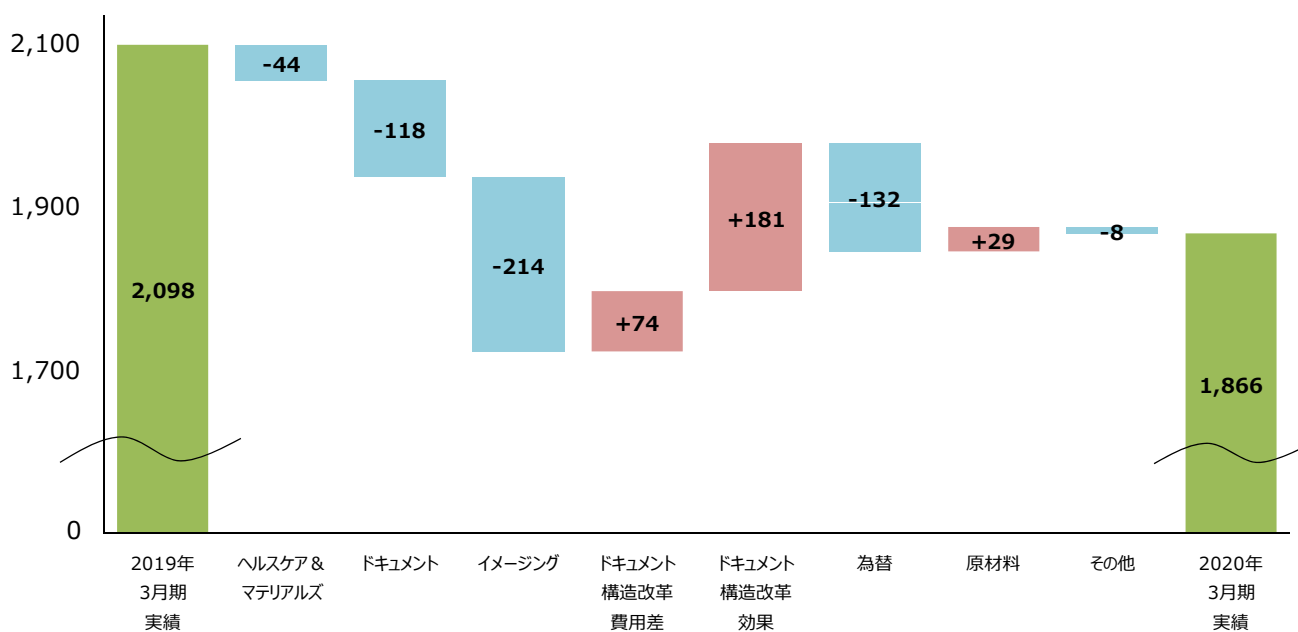
2020年3月期 決算説明会

参考資料

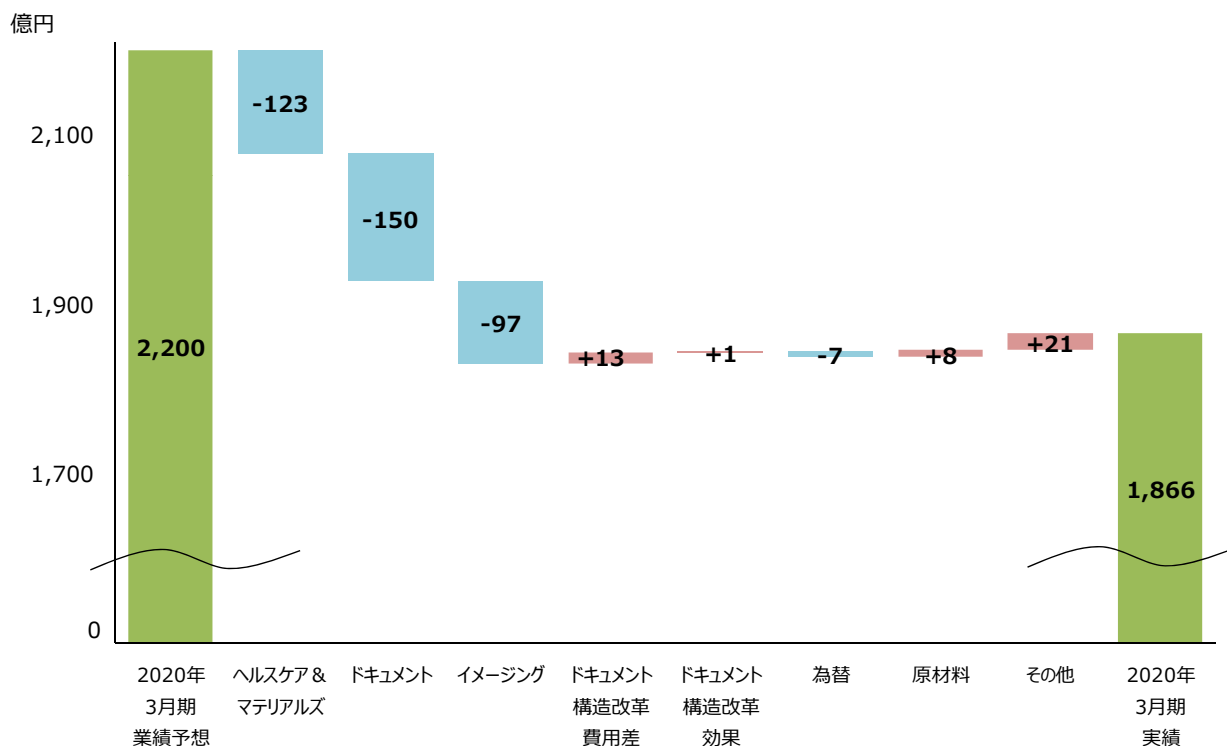
2020年3月期 決算説明会 参考資料

営業利益増減分析(通期 対前年)

億円



## 営業利益増減分析(通期 対業績予想)



16

## 4Q/通期 業績

(単位: 億円)

	4Q			通期		
	2019年3月期	2020年3月期	対2019年3月期	2019年3月期	2020年3月期	対2019年3月期
売上高	6,317 100.0%	5,867 100.0%	-450 -7.1%	24,315 100.0%	23,151 100.0%	-1,164 -4.8%
営業利益	515 8.1%	350 6.0%	-165 -32.1%	2,098 8.6%	1,866 8.1%	-232 -11.1%
税金等調整前 当期純利益	582 9.2%	66 1.1%	-516 -88.8%	2,128 8.8%	1,731 7.5%	-397 -18.7%
当社株主帰属 当期純利益	370 5.9%	43 0.7%	-327 -88.3%	1,381 5.7%	1,250 5.4%	-131 -9.5%
為替 : 米ドル	110円	109円	1円高	111円	109円	2円高
: ユーロ	125円	120円	5円高	128円	121円	7円高

<その他増減要因(4Q/通期 対前年度)> 営業利益 原材料: ▲1億円 / +29億円

17

## 4Q/通期 業績

(単位：億円)

売上高	4Q			通期		
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度
ヘルスケア	1,414	1,533	119 (+8.6%)	4,843	5,041	198 (+4.1%)
ヘルスケア&マテリアルズ	2,801	2,830	29 (+1.0%)	10,390	10,242	-148 (-1.4%)
ドキュメント	2,685	2,372	-313 (-11.6%)	10,056	9,583	-473 (-4.7%)
イメージング	831	665	-166 (-20.0%)	3,869	3,326	-543 (-14.0%)
合計	6,317	5,867	-450 (-7.1%)	24,315	23,151	-1,164 (-4.8%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q			通期		
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度
ヘルスケア	159 [11.1%]	131 [8.5%]	-28 (-17.3%)	333 [6.8%]	331 [6.6%]	-2 (-0.8%)
ヘルスケア&マテリアルズ	276 [9.9%]	216 [7.6%]	-60 (-21.7%)	976 [9.4%]	924 [9.0%]	-52 (-5.3%)
ドキュメント	295 [11.0%]	245 [10.3%]	-50 (-16.9%)	964 [9.6%]	1,050 [11.0%]	86 (+9.0%)
イメージング	31 [3.7%]	-23 [-3.5%]	-54 (赤字化)	511 [13.2%]	251 [7.5%]	-260 (-51.0%)
本社/連結調整	-87	-88	-1 -	-353	-359	-6 -
合計	515 [8.1%]	350 [6.0%]	-165 (-32.1%)	2,098 [8.6%]	1,866 [8.1%]	-232 (-11.1%)

18

## 4Q/通期 業績

## ■ヘルスケア&amp;マテリアルズ ソリューション

(単位：億円)

売上高	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	1,414	1,533	119 (+8.6%)	143 (+10.2%)	4,843	5,041	198 (+4.1%)	301 (+6.2%)
ディスプレイ材料	212	178	-34 (-16.1%)	-34 (-16.1%)	982	855	-127 (-13.0%)	-127 (-13.0%)
産業機材/電子材料 ファインケミカル	454	480	26 (+5.7%)	32 (+7.2%)	1,798	1,779	-19 (-1.0%)	17 (+1.0%)
高機能材料	666	658	-8 (-1.2%)	-2 (-0.2%)	2,780	2,634	-146 (-5.3%)	-110 (-4.0%)
記録メディア	116	95	-21 (-18.2%)	-19 (-16.8%)	388	419	31 (+7.8%)	41 (+10.3%)
グラフィックシステム/インクジェット	603	541	-62 (-10.4%)	-52 (-8.6%)	2,367	2,136	-231 (-9.8%)	-174 (-7.4%)
その他	2	3	1	1	12	12	0	0
合計	2,801	2,830	29 (+1.0%)	71 (+2.5%)	10,390	10,242	-148 (-1.4%)	58 (+0.6%)

\*セグメント間取引消去後

(単位：億円)

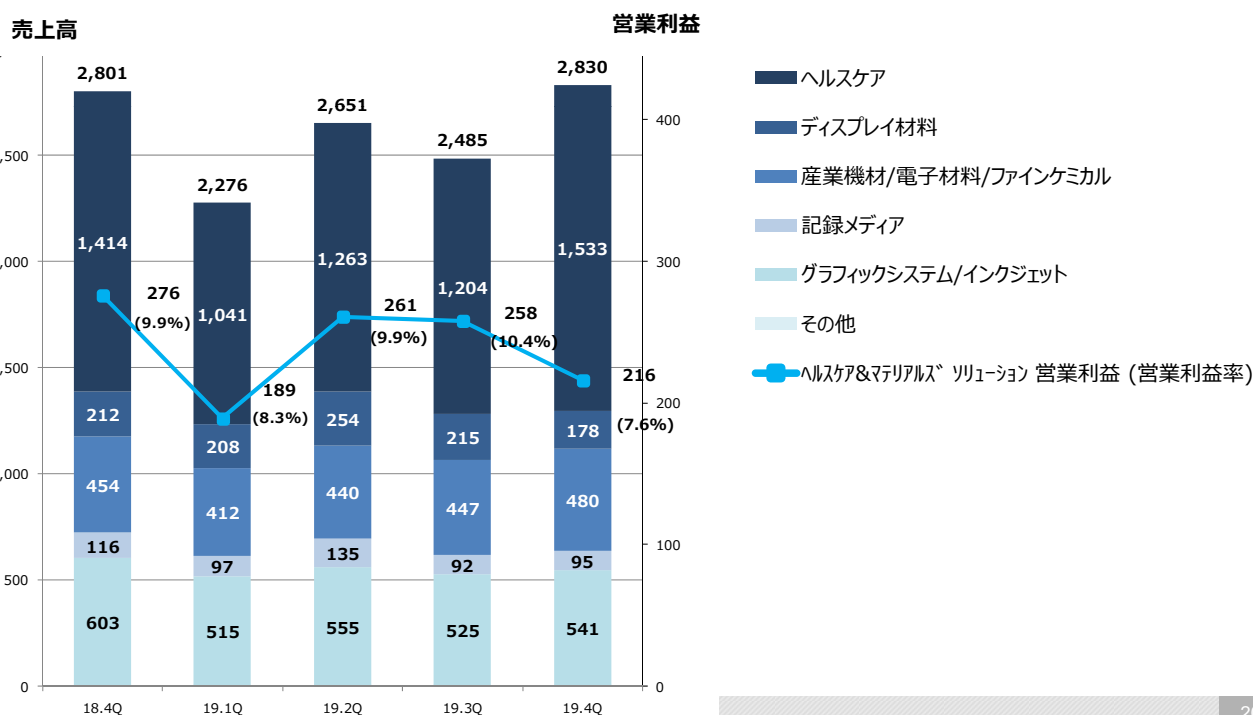
営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
ヘルスケア	159 [11.1%]	131 [8.5%]	-28 (-17.3%)	-28 (-17.3%)	333 [6.8%]	331 [6.6%]	-2 (-0.8%)	16 (+4.6%)
ヘルスケア&マテリアルズ	276 [9.9%]	216 [7.6%]	-60 (-21.7%)	-59 (-21.4%)	976 [9.4%]	924 [9.0%]	-52 (-5.3%)	-13 (-1.3%)

19



## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

## ■ ヘルスケア&amp;マテリアルズ ソリューション (単位: 億円)



20

## 4Q/通期 業績

## ■ ドキュメント ソリューション

(単位: 億円)

売上高	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
オフィスプリンター	323	290	-33 (-10.0%)	-28 (-8.6%)	1,265	1,181	-84 (-6.6%)	-68 (-5.3%)
オフィスプロダクト&プリンター	1,435	1,247	-188 (-13.0%)	-167 (-11.6%)	5,691	5,312	-379 (-6.6%)	-296 (-5.2%)
プロダクションサービス	326	281	-45 (-14.0%)	-40 (-12.3%)	1,233	1,165	-68 (-5.5%)	-44 (-3.6%)
ソリューション&サービス	769	715	-54 (-7.0%)	-43 (-5.6%)	2,612	2,733	121 (+4.7%)	168 (+6.5%)
その他	155	129	-26	-23	520	373	-147	-134
合計	2,685	2,372	-313 (-11.6%)	-273 (-10.1%)	10,056	9,583	-473 (-4.7%)	-306 (-3.0%)

\*セグメント間取引消去後

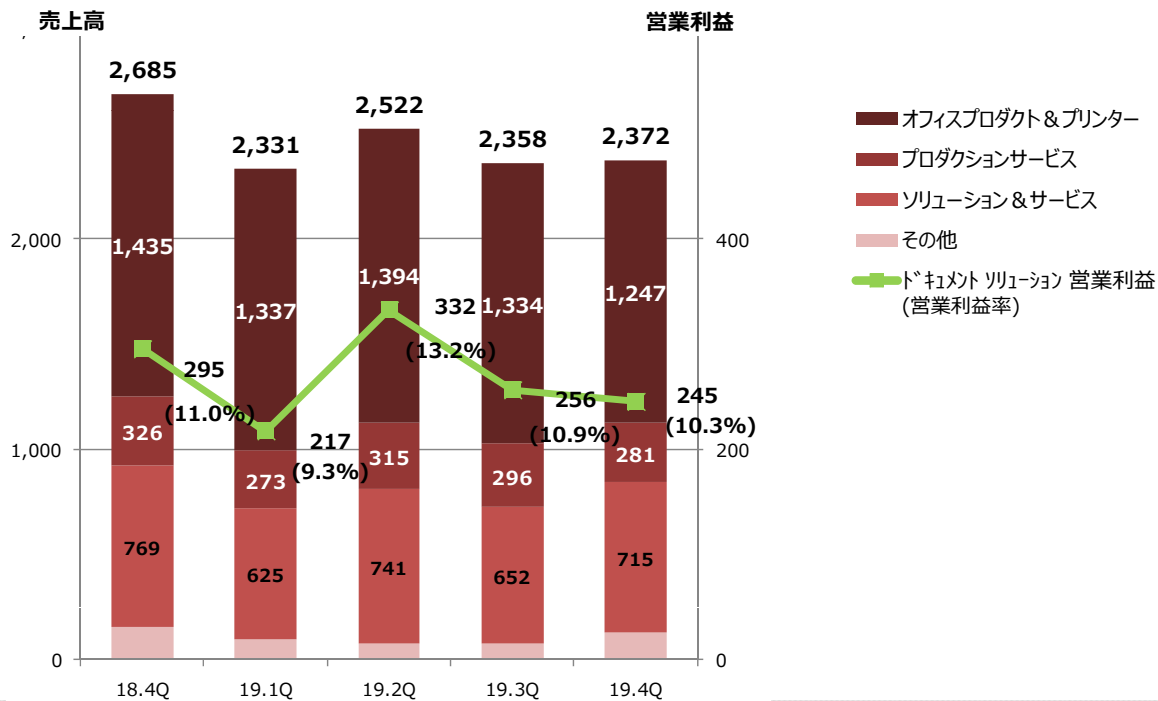
(単位: 億円)

営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	為替影響除く
ドキュメント	295 [11.0%]	245 [10.3%]	-50 (-16.9%)	-36 (-12.2%)	964 [9.6%]	1,050 [11.0%]	86 (+9.0%)	137 (+14.3%)

21

# セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

## ■ ドキュメントソリューション (単位: 億円)



# 4Q/通期 業績

## ■ イメージングソリューション

(単位: 億円)

売上高	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度		2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	
				為替影響除く				為替影響除く
フォトイメージング	538	454	-84 (-15.5%)	-72 (-13.4%)	2,575	2,289	-286 (-11.1%)	-210 (-8.2%)
電子映像	199	143	-56 (-28.6%)	-51 (-26.1%)	906	720	-186 (-20.5%)	-155 (-17.1%)
光学デバイス	94	68	-26 (-28.1%)	-25 (-26.8%)	388	317	-71 (-18.3%)	-63 (-16.2%)
光学・電子映像	293	211	-82 (-28.4%)	-76 (-26.3%)	1,294	1,037	-257 (-19.9%)	-218 (-16.9%)
合計	831	665	-166 (-20.0%)	-148 (-18.0%)	3,869	3,326	-543 (-14.0%)	-428 (-11.1%)

\*セグメント間取引消去後

(単位: 億円)

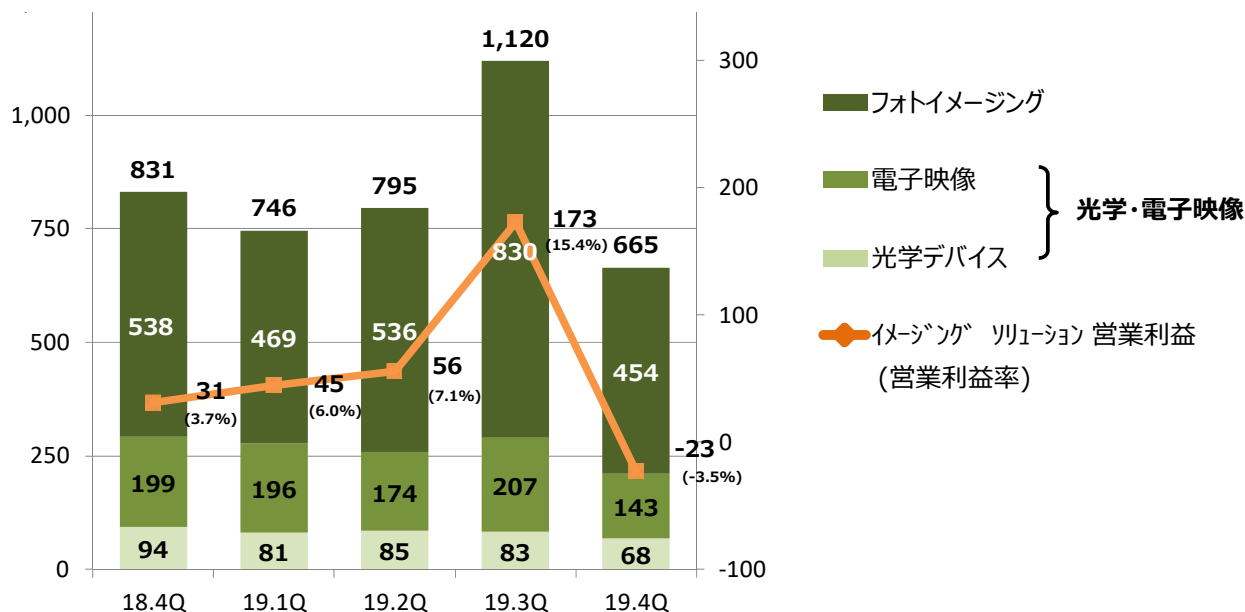
営業利益 [営業利益率]	4Q				通期			
	2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度		2019年 3月期	2020年 3月期	対前年度	
				為替影響除く				為替影響除く
イメージング	31 [3.7%]	-23 [-3.5%]	-54 (赤字化)	-50 (赤字化)	511 [13.2%]	251 [7.5%]	-260 (-51.0%)	-216 (-42.3%)

## セグメント別 四半期 売上高・営業利益 推移

## ■ イメージング ソリューション (単位：億円)

売上高

営業利益



24

## 国内・海外別連結売上高

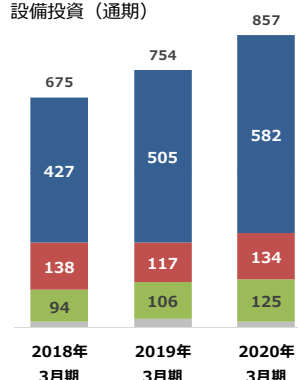
(単位：億円)

	2019年3月期		2020年3月期		対前年度	
	構成比(%)	売上高(億円)	構成比(%)	売上高(億円)	売上高(億円)	売上高(%)
日本	41.4%	10,065	43.4%	10,040	-25	(-0.2%)
米州	19.1%	4,634	18.3%	4,243	-391	(-8.4%)
欧州	13.0%	3,157	12.8%	2,966	-191	(-6.0%)
内、中国	12.2%	2,965	11.7%	2,713	-252	(-8.5%)
アジア他	26.5%	6,459	25.5%	5,902	-557	(-8.6%)
海外	58.6%	14,250	56.6%	13,111	-1,139	(-8.0%)
合計	100.0%	24,315	100.0%	23,151	-1,164	(-4.8%)

25

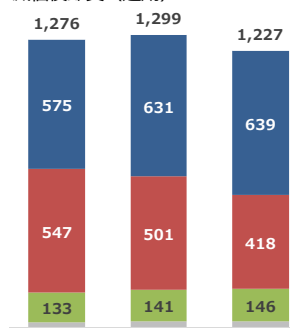
## 設備投資、減価償却費

設備投資（通期）



2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期

減価償却費（通期）



2018年3月期 2019年3月期 2020年3月期

(単位：億円)

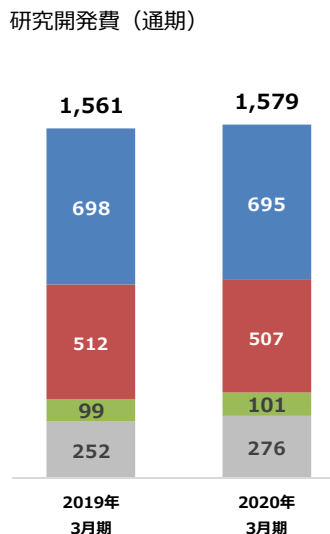
年度	4Q			通期		
	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
ヘルスケア&マテリアルズ	154	205	170	427	505	582
ドキュメント	19	38	57	138	117	134
イメージング	32	39	38	94	106	125
コーポレート	7	7	5	16	26	16
設備投資 ※	212	289	270	675	754	857
ヘルスケア&マテリアルズ	147	175	165	575	631	639
ドキュメント	138	124	100	547	501	418
イメージング	35	35	38	133	141	146
コーポレート	3	9	6	21	26	24
減価償却費	323	343	309	1,276	1,299	1,227
有形固定資産の減価償却費 ※	171	200	174	665	709	686

■ ヘルスケア&マテリアルズソリューション  
■ ドキュメントソリューション  
■ イメージングソリューション  
■ コーポレート

※ ドキュメントソリューション部門等のレンタル資産を除く。

## 研究開発費、販売費及び一般管理費

研究開発費（通期）



■ ヘルスケア&マテリアルズソリューション  
■ ドキュメントソリューション  
■ イメージングソリューション  
■ コーポレート

(単位：億円)

年度	4Q		通期	
	2019年3月期	2020年3月期	2019年3月期	2020年3月期
ヘルスケア&マテリアルズ	189	181	698	695
ドキュメント	120	123	512	507
イメージング	27	22	99	101
コーポレート	67	73	252	276
研究開発費	403	399	1,561	1,579
<売上高比>	6.4%	6.8%	6.4%	6.8%
販売費及び一般管理費	1,513	1,565	6,316	6,100
<売上高比>	24.0%	26.6%	26.0%	26.3%

## 為替、原材料価格、人員

## 為替

(単位：円)

	2019年3月期					2020年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
米ドル	109	111	113	110	111	110	107	109	109	109
ユーロ	130	130	129	125	128	123	119	120	120	121

## 原材料価格 (平均)

(単位：千円/kg)

	2019年3月期					2020年3月期				
	1Q	2Q	3Q	4Q	通期	1Q	2Q	3Q	4Q	通期
銀	58	54	53	55	55	53	57	60	61	57

## 人員

(単位：人)

	2019.3末	2019.6末	2019.9末	2019.12末	2020.3末
連結	72,332	72,358	72,842	73,092	73,906

28

## パイプライン (2020年5月22日時点)

開発番号	薬効・適応症	剤形	地域	開発段階
T-705	抗インフルエンザウイルス薬	経口	日本	承認済み
			米国	Ph III
	抗新型コロナウイルス (COVID-19) 薬		日本	Ph III
			米国	Ph II
T-3811	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) 治療薬	経口	中国	承認済み
T-817MA	アルツハイマー型認知症治療薬	経口	米国	Ph II
			日本	Ph II
	脳卒中後のリハビリテーション効果促進薬		日本	Ph II
T-4288	新規フルオロケトライド系抗菌薬	経口	日本	承認申請中
FF-10501	骨髄異形成症候群治療薬	経口	日本	Ph I
FF-10502	進行・再発固形がん治療薬	注射	米国	Ph II
FF-21101	進行・再発固形がん治療薬 (Armed抗体)	注射	米国	Ph I / II a
			日本	Ph I
F-1311	前立腺がん診断薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II
FF-10101	急性骨髄性白血病治療薬	経口	米国	Ph I
F-1515	神経内分泌腫瘍治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph I / II
FF-10832	進行性固形がん治療薬 (ゲムシタピンリボソーム)	注射	米国	Ph I
FF-10850	進行性固形がん治療薬 (トポテカンリボソーム)	注射	米国	Ph I
F-1614	難治性褐色細胞腫治療薬 (放射性医薬品)	注射	日本	Ph II

29

## 参考情報

### 富士フィルムホールディングス 株主・投資家情報

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors.html>

### 富士フィルムホールディングス 統合報告書2019

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials/integrated-report.html>

### IR資料室

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/ir-materials.html>

### 富士フィルムってどんな会社？

<https://ir.fujifilm.com/ja/investors/individual.html>

### グローバルブランディングキャンペーン「NEVER STOP」

<https://brand.fujifilm.com/neverstop/jp>

### 新型コロナウイルス感染症への取り組み

<https://brand.fujifilm.com/covid19/jp/>

# FUJIFILM

Value from Innovation

富士フィルムは、生み出しつづけます。

人々の心が躍る革新的な「技術」「製品」「サービス」を。

明日のビジネスや生活の可能性を拡げるチカラになるために。

富士フィルム ホールディングス株式会社

経営企画部 コーポレートコミュニケーション室

<https://holdings.fujifilm.com/ja>